

梅花女子大学教育後援会会則

2004年4月1日 制定
2019年4月1日 改訂

- (名称)
第1条 本会は、名称を梅花女子大学教育後援会という。
- (目的)
第2条 本会は、梅花女子大学（以下「大学」という）保証人との連携により、教育の効果を高めると共に、大学の教育研究活動及び学生を行う諸活動を後援して、その発展に寄与することを目的とする。
- (会員)
第3条 本会の会員は、大学に在籍する学生の父母またはこれに代わる保証人全員をもって構成する。
- (事業)
第4条 本会は、次の事業を行う。
1. 会報の定期的発行
2. 教職員、学生の教育研究上必要な援助
3. 学生のクラス活動又はクラブ活動等に必要の援助
4. 会員、学生に対する慶弔
5. その他本会の目的達成に必要な事項
- (事務所)
第5条 本会は、事務所を大学事務室内に置く。
- (役員)
第6条 本会に次の役員を置く。
会長 1名 副会長 2名
幹事 若干名 会計 2名
会計監査 2名
- (役員の任期)
第7条 役員の任期は、4月から翌年3月までの1カ年とし、再任を妨げない。
2. 欠員を生じた場合の後任者は役員会が選任し、後任者の任期は前任者の残任期間とする。
- (役員を選出)
第8条 役員は、総会において選出する。
- (顧問)
第9条 本会は、第6条に定める役員のほかに、顧問を置くことができる。
2. 顧問は大学の学長、各学部長、学生部長、教務部長、総務部長、および就職部長とし会長が委嘱する。
- (役員の仕事)
第10条 会長は、会務を統轄し、本会を代表する。また、すべての会議の議長となる。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故があったときはその任務を代行する。
3. 幹事は、会員を代表し会務を分掌する。
4. 会計は、本会の会計を担当する。
5. 会計監査は、本会の会計に関する監査を行う。
6. 顧問は、会長の諮問に応じ、本会の運営につき意見をのべることができる。
- (事務)
第11条 本会の所掌事務を遂行するため、専任の事務員をおくことができる。
前項によりがたい場合は、大学に委嘱することができる。
- (会費及び寄附金)
第12条 本会の入会金は5,000円、会費は年額10,000円とし、第2条の目的を達成するための経費に充当する。
2. 前項のほか、会員又は大学に縁故のある関係者から寄附金を受けることができる。

- (会費の徴収)
第13条 会費は、前期学費納付と同時に徴収する。
2. 既納の入会金及び会費は退会その他いかなる理由があっても返還しない。
- (会計年度)
第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- (総会)
第15条 本会は、学年の始めに定例総会を開催しなければならない。
- (総会の付議事項)
第16条 本会の予算、決算及び役員の変更は、総会に付議し、その承認を得なければならない。
- (役員会又は総会の招集)
第17条 本会の事業を遂行するために必要があるときは、会長は役員会又は総会を招集することができる。
- (議決)
第18条 会議の議決は、出席者の過半数の同意を必要とする。可否同数の場合は議長の決するところによる。
2. 書面決議の場合も前項に準ずる。
- (慶弔)
第19条 会員、学生に慶事または弔事があったときは、別に定める慶弔金規程により、慶弔金を贈るものとする。
- (付則)
2. この会則は、2019年4月1日から実施する。

梅花女子大学教育後援会慶弔金規程

- (目的)
第1条 この規程は、梅花女子大学教育後援会会則第19条に基づき、会員、学生に対する、慶弔金について定める。
- (香典及び供花)
第2条 学生が死亡したときは、その遺族に対して次のとおり香典及び供花を贈る。
(1) 香典 20,000円 (2) 供花 しきみ (実費)
2. 前項の他、会長名による弔電をうつものとする。
- 第3条 学生の父母(父母のない者はこれに代わる保証人)が死亡したときは、その遺族に対して次のとおり香典及び供花を贈る。
(1) 香典 10,000円 (2) 供花 しきみ (実費)
2. 前項の他、会長名による弔電をうつものとする。
- (傷病見舞金)
第4条 学生が傷病のため6ヶ月以上にわたって療養するときは、次のとおり見舞金を贈る。
(1) 傷病見舞金 10,000円
- (災害見舞金)
第5条 会員、学生が火災により罹災したときは、次のとおり見舞金を贈る。
(1) 全焼のとき 20,000円
(2) 半焼のとき 10,000円
- (その他慶弔金)
第6条 その他役員会が必要と認めるときは、その都度協議の上相応の慶弔金又は見舞金を贈ることができる。
- (付則)
1. この規程は、2015年4月1日から実施する。
2. この規程の改廃は総会の承認を経て会長が行う。

<p>梅花女子大学</p> <h1>教育後援会々報</h1>	<p>No. 21 (2024年10月1日)</p> <p>発行 梅花女子大学教育後援会 〒567-8578 茨木市宿久庄2-19-5</p> <p>印刷 株式会社ITP</p>
--------------------------------	---



『就任のご挨拶』

教育後援会会長
本久 幸子

150th
Toward the 150th
Anniversary in 2023

会員の皆様、平素より教育後援会にあたたかいご支援ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。この度、2024年度会長に就任させていただきました、本久幸子でございます。微力ではございますが新役員一同力を合わせ精一杯務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

今年度も皆様のおかげで無事教育後援会役員会、総会を開催することが出来ました。就職セミナーや個別相談会にも挙って参加いただきありがとうございました。また新旧役員会と大学関係者親睦会では、先生方との交流を通して梅花女子大学各学部各学科の特色と取り組みを通じ就職へのアドバンテージを提供いただいていることを知る、貴重な機会となりました。又、欧米で活躍するためには学業以外にキリスト教の思想を知るべきであり、休日から生活習慣までキリスト教が溶け込んでいるというお話に共感と感銘を受けました。

新型コロナウイルスによる制限はほぼなくなり規制も緩和され、ここ数年来ようやく学生らしい青春を謳歌し笑顔で通学するその姿をみて、胸をなでおろしながら笑顔で登校する様をみて非常にうれしく思います。

教育後援会といたしましても、学生たちが自分の力を発揮し、支え合い、これからの社会の行く末を担う、又未来を切り開く力を学び取り、社会で活躍できるよう今後とも学校と共に支援できたらと思っています。また、地方集会では、参加される保護者の皆様との交流を通じ、遠距

離での学生生活だからわかる困る事、良かった事等の気付きを頂き、学生へのより良い支援に繋げていけたらと思っています。

さて、昨今リクルート、パソナをはじめ就職関連企業の話として現在ある職業の内の半分が10年以内に無くなり、また新しい職業が生まれていくと就職セミナーなどでお話を聞きます。我々保護者が想像していないような仕事生まれ、又、我々保護者が知る限り優良であった職業が無くなっていくサイクルがどんどん早くなり尚且つ少子高齢化社会を迎え、社会に旅立つ子供たちにとってはますます難しい選択を迫られることが増えると予想します。そのような時代の方向性を察知し、学習、社会性、精神力を手厚く指導いただける素晴らしい学び舎であり、又、社会の荒波に漕ぎ出す為の、知恵と勇気と力を十分に蓄える卒業しても悩んだ時に帰ってきたくならないような学校であることが、子供たちにとっての救いでありその学校のすばらしさを存続させるために教育後援会も微力ながら尽力したいと思います。

最後になりましたが、学校で磨いた人間力とスキルで学生達が様々なことにチャレンジしさらに飛躍することを祈念致しましてご挨拶とさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

2023年度
梅花女子大学教育後援会決算

(2023. 4 ~ 2024. 3)

■収入の部 (単位: 円)

科 目	2023年度 予算	2023年度 決算
会 費	20,250,000	20,010,000
入 会 金	2,235,000	2,240,000
受 取 利 息	86	126
前年度からの繰越金	7,605,195	7,605,195
合 計	30,090,281	29,855,321

■支出の部

科 目	2023年度 予算	2023年度 決算	
運営費	会 議 費	1,000,000	737,160
	慶 弔 費	200,000	78,500
	事 務 費	1,400,000	722,006
	会 報 発 行 費	170,000	164,450
学 生 活 動 費	学 会 補 助 費	180,000	169,000
	学 生 指 導 費	300,000	40,000
	オリエンテーション 補 助 費	1,300,000	354,633
	卒 業 記 念 品 費	3,000,000	3,710,368
	小 梅 祭 補 助 費	3,500,000	3,500,000
	ク ラ ブ ・ サ ー ク ル 活 動 補 助 費	3,000,000	3,000,000
施 設 設 備 等 支 援	施 設 設 備 一 部 補 助	6,500,000	0
学 生 経 済 支 援 費	食 堂 補 助 費	9,000,000	7,596,850
予 備 費	540,281	0	
次年度への繰越金	0	9,782,354	
合 計	30,090,281	29,855,321	

2024年度

梅花女子大学

教育後援会役員・顧問名簿

会 長	本 久 幸 子 (情 報 4年)
副 会 長	浦 田 真 智 (口 腔 4年)
〃	袋 井 恵 美 子 (心 理 4年)
会 計	平 澤 君 枝 (日 文 4年)
〃	道 光 陽 子 (情 報 4年)
〃	森 純 子 (食 文 化 4年)
監 査	青 木 咲 江 (日 文 4年)
〃	下 野 志 歩 子 (こ ども 4年)
幹 事	松 川 加 代 子 (情 報 3年)
〃	田 村 由 美 子 (看 護 3年)
〃	石 田 恵 美 子 (口 腔 3年)
〃	尾 家 直 美 (こ ども 3年)
〃	岸 本 知 子 (心 理 3年)
〃	中 田 麻 紀 (食 文 化 3年)
〃	近 藤 亜 紀 子 (管 理 栄 養 3年)
〃	水 落 裕 代 (情 報 2年)
〃	上 崎 州 美 (看 護 2年)
〃	大 櫛 有 希 子 (看 護 2年)
〃	矢 寺 万 希 子 (口 腔 2年)
〃	今 村 憲 子 (管 理 栄 養 2年)
〃	飯 島 ユ ミ (情 報 1年)
〃	米 倉 ゆ かり (看 護 1年)
〃	市 田 八 重 子 (口 腔 1年)
〃	西 井 恵 子 (こ ども 1年)
〃	藤 井 史 都 (心 理 1年)
〃	小 川 由 香 (食 文 化 1年)

顧 問	河 村 圭 子 (学 長)
〃	今 村 泰 正 (文 化 表 現 学 部 長)
〃	伊 丹 昌 一 (心 理 こ ども 学 部 長)
〃	小 鶴 祥 子 (食 文 化 学 部 長)
〃	深 見 秀 之 (看 護 保 健 学 部 長)
〃	閑 喜 美 史 (学 生 部 長)
〃	瀬 戸 口 誠 (教 務 部 長)
〃	深 谷 繁 (就 職 部 長)
〃	平 木 宏 行 (総 務 部 長)

2024年度
梅花女子大学教育後援会予算

(2024. 4 ~ 2025. 3)

■収入の部 (単位: 円)

科 目	2024年度予算
会 費	18,630,000
入 会 金	2,035,000
受 取 利 息	126
前年度からの繰越金	9,782,354
合 計	30,447,480

■支出の部

科 目	2024年度予算	
会 議 等 運 営	会 議 費	1,000,000
	慶 弔 費	200,000
	事 務 費	1,400,000
	会 報 発 行 費	170,000
学 生 活 動 支 援	学 会 補 助 費	180,000
	学 生 指 導 費	300,000
	オリエンテーション補助費	1,200,000
	卒 業 記 念 品 費	4,000,000
	小 梅 祭 補 助 費	3,500,000
	ク ラ ブ ・ サ ー ク ル 活 動 補 助 費	3,000,000
施 設 設 備 等 支 援	施 設 設 備 一 部 補 助	6,000,000
学 生 経 済 支 援	食 堂 補 助 費	9,000,000
予 備 費	497,480	
合 計	30,447,480	

「ご挨拶」

理事長 小川 友次

教育後援会の皆様におかれましては、平素より、本学園の教育・研究活動に温かいご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、梅花学園は2028年創立150周年に向け動き出しました。

茨木キャンパスは、この8月からA棟リニューアル工事を開始し、10月には澤山記念館も大幅なりニューアル工事を予定しております。豊中キャンパスも現在、円形校舎の大リニューアル工事を行っており、12月に完成する予定です。河村新学長とも議論を重ねながら、教育内容や改革などチャレンジ精神を持ち、学生のために学園の質の向上に向け取り組んでいきたいと思ひます。

また、今春3月17日には、第1回卒業生・在校生・ご家族様向けの梅花ファミリーオープンキャンパス&150周年キックオフ発表が開催されました。来春も予定しておりますので、皆様共是非ご参加ください。

私は、学園の方針「学び、楽しく、美しく梅花学園」と定め日本一美しい学園を目指し、4年後の創立150周年に向け、教職員一丸となり、梅花学園の未来に向かってチャレンジしてまいります。

引き続き温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

学長就任のご挨拶

学長 河村 圭子

教育後援会の皆様には、平素より本学の教育・研究活動に多大なご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

さて私こと河村圭子は、2024年4月より梅花女子大学学長に就任いたしました。前長澤学長の後を引き継いでいただくこととなり、大変光栄に思うと共に、責任の重さに身が引き締まる思いであります。私自身の力不足は否めませんが、教職員の方々の支援を得ながら、学長として期待されている役割を懸命に果たして参る所存です。どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、梅花女子大学は2028年に創立150周年を迎えることとなり、5年後に向けて2024年1月にはキックオフの会見を行いました。小川理事長はソフトとハード両面において、さらなるブランドアップを図るために、特にIT関連の教育の強化を推進することを明言し、創立150周年記念事業計画についても言及しました。これを受けて、新たに教育改革推進部会とIT推進部会が編成され、新しいカリキュラムや教育方法および教育環境について検討されています。前者では時代になかった女子大学の教育について議論がなされ、その成果の一つとして、次年度から「生成AI活用学」が共通科目として設けられることになりました。教育は停滞することなく変化し続けることで、その質を維持できるものと考えています。当部会では学部学科編成も含め、時代に適った女子大学における教

育の実現に向けて引き続き検討を重ね、改革を進めていきます。

後者では、全学的なIT推進を掲げ、学内ネットワークの強化やアクティブラーニングに適したコンピューター演習室の改修、コンピューターの新機種入れ替えなどが進行中です。後期からは新しい学習環境で学ぶことが可能になりました。当部会では主に、日々進歩・変化するIT社会に適応できる知識とスキルを修得するための教育環境の整備と、「生成AIに関するガイドライン」作成・HP公開などITリテラシー教育について取り組んでいきます。

また、本学の産学連携教育は高い評価を受けており、これまでも多くの商品化やプロジェクトへの参画の実績を積んできました。学生たちにとっても得難い経験であり、将来、彼女らのキャリア形成に大いに寄与できるものと自負しております。各学科においても、社会で活躍するために役立つ多様な資格、あるいは高い専門性を有する国家資格の取得など、特色ある教育を実践しております。

梅花女子大学はこれからもキリスト教主義の小規模女子大学であるという特徴を強みとして活かしつつ、現代社会で活躍できる女性の育成を使命として、変化し続けなければならないと考えています。その努力が、150周年の伝統を引き継いでいくことであると考えています。教育後援会の皆様におかれましては、今後も本学の教育・研究活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

自らの可能性を開花させ、

自分らしい生き方を!

学生部長 閑喜 美史

梅花女子大学教育後援会のみなさまには、日頃より多大なご支援を賜りまして、大変ありがとうございます。

今年度、学生部長を拝命いたしました。そのおかげで、大学の教育活動の様々な場面において、学部学科を越えた多くの学生と関わりの機会を得ることができ、大変ありがたく思っております。

そして今年、梅花女子大学は2028年に迎える創立150周年に向け、新たなスタートを切りました。これまでとこれからと、様々に変わりゆく人やものの環境の中で、学生たちは互いに学びあい、高めあい、励まし合って大学生活を過ごしています。

しかし中には、「自分には1つも良いところがない。」「勉強はずっと苦手だった。」「面接が苦手だから就職は無理。」「人間関係が苦しく耐えられない。」など、自分の良さが認められず、受け入れられず、自己否定をして苦しんでいる学生たちも少なからずいます。

私は学生たちに、ぜひ自分自身の良さや得意に気づいてほしいと、思っています。授業を履修してくれる学生や、学生部を訪れてくれる学生たちそれぞれに、言葉遣いが優しかったり、礼儀正しい所作であったり、少しの説明ですぐ理解してくれたり、思いやりのある言葉をかけてくれたり、良さの発見は尽きません。

学生一人一人が自己と向き合い、自身の良さに気づ

づき、その可能性を活かし、自分らしい生き方を見つけていく過程に、梅花女子大学があると考えています。教員の一人として、かけがえの無い大事な学生一人一人の、自らの可能性の開花、自分らしい生き方を、全力で応援していきたいと思っております。

教育後援会のみなさまにおかれましては、深い愛情による学生支援をいただいていることに、心より感謝いたしております。今後も引き続き、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

文化表現学部の近況報告

文化表現学部長 今村 泰正

教育後援会の皆様には、日頃より暖かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。文化表現学部では、言語や文学、文化、情報を各学科の特色に合わせて学ぶことで、知識や感性、広い視野を身に付ける教育を行っております。そこで身に付けた力は、創作活動や情報発信などの形で学内外に発表され、学生の自信にも繋がっています。特にこの2年ほどは、コロナ禍が収束に向かうにつれて産学連携や国内外での研修など対外的な活動も活発化し、彼女たちの活動の場は広がってきております。今後益々の活躍が期待されます。なお各学科の最新動向につきましては大学ホームページの「学科ニュース」、「学科Blog」、各種SNSで発信しておりますので、是非ご覧ください。

さて大学を取り巻く環境は、少子化に伴い非常に厳しさを増しております。その中であっても本学の特徴である少人数教育の利を生かし、教員一同より良い教育方法、教育環境の実現に努めてまいる所存です。幸い就職は好調を保っております。教育後援会の皆様方には、引き続いてご家庭からのサポートをお願いいたします。

以下では各学科長から今年度の活動についてご報告させていただきます。

情報メディア学科

教育後援会のみなさまには、日頃よりご支援賜り深く感謝申し上げます。本学科は現在、「デジタルデザイン専攻」、「マスコミ・パフォーマンス専攻」、「ファッションビジネス専攻」、「医療事務・図書館司書専攻」の4専攻からなる多様な専門の学びが可能な学科となっております。

2024年度は、67名の新入生を迎えてのスタートとなりました。新入生にとって初めての大学での授業が開始され、期待と不安のなかで初めて学ぶ授業や前期試験をみんなで乗りきることができました。

次に、本学科のフィールド体験関係授業の取り組みをいくつかご紹介いたします。

1つめは、1年次の「初年次セミナー」です。今年度は、ファッション分野の教員が中心となり、入学してまもなく4月の土曜日に1年次生全員とファッション分野の教員で神戸ファッション美術館に行き、見学だけでなく親交を深めることもできました。

2つめに、2年前期必修科目の「問題発見解決セミナーⅡ」では、電気事業連合会様との産学連携授

業をおこないました。大阪・関西万博における電力館の認知度を上げ、人気ナンバー1パビリオンにするとの課題について、パビリオン・SNSメディアの活用方法を17の班に分かれて提案しました。

3つめは、3年次から4年次にかけて行うゼミ授業です。2023年度から開講されたマスコミ・出版ゼミ(3年「情報メディア演習」)では、雑誌編集に取り組みました。学生が読者対象、特集テーマなどを考え、「大阪♡カフェでチル旅」というタイトルで取材、記事制作などをしました。実際に社会に出て雑誌づくりをすることで、コミュニケーション力などを身につけることができました。紙媒体はオープンキャンパスなどのイベントで配布していますが、電子版は大学のホームページで公開しています。



映像関連分野のゼミでは、奈良の民俗博物館や堺市の南宗寺、豊能郡豊能町での映画撮影現場の見学、また、俳優の衣装の着替えや照明あてのサポート、エキストラ体験等を行い、教室では得られない貴重な学びとなりました。

上記の授業の詳細は、本学ホームページ学科ブログでもご紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

次に、資格関連について、2023年度は、医療事務関連資格の医療管理秘書士(56名)、福祉関連資格の保健医療ソーシャルワーカー(12名)および保健児童ソーシャルワーカー(15名)の受験生全員が合格しました(各資格合格率100%)。3つの資格受験を希望し、チャレンジした結果、全て合格した学生もいました。受験する学生は、熱心に受験勉強に取り組んでいました。

設備面では、学生同士や学生と教員が交流や自主的な学習の場であるコミュニティールームが現在8~9月の夏休み期間中に工事が行われております。リニューアルされたコミュニティールームを学生および教員一同、楽しみにしているところです。次年度の本会会報では、新しくなった本学科のコミュニティールームの様子をご報告できると存じます。

今年度も本学科教員一同一丸となって、社会のニーズに求められる教育に取り組んで参ります。(綾部貴子学科長)

日本文化学科

2024年度は、28名の新入生と5名の転科生を迎えてのスタートとなりました。4月6日(土)、新入生は学会役員の先輩たちの準備した新入生歓迎会に招かれ、お茶とケーキと一緒に、自己紹介を兼ねたゲームなどで楽しいひと時を過ごしました。4月20日(土)~21日(日)には、京都研修がありました。一日目はかやぶきの里・美山町で、二日目は京都市内で日本の歴史や文化に触れます。研修が進むとバスの移動が賑やかになり、友達が増えた様子もうかがえます。

5月27日(月)には、春季講演会を開催しました。今回は、本学こども教育学科の増野智紀先生に「日本文化を題材に図画工作に挑戦」と題してご講演いただきました。日頃は子どもたちに展開するワークショップを、鳥獣戯画を利用して日本文化学科用にアレンジして実践してくださり、とても刺激的でした。秋季講演会も、私たちの好奇心を誘って下さる方に講演していただく予定です。

日本文化学科の書道芸術専攻は、担当教員が授業のほかに書道部の活動もみえています。授業後はもちろん、長期休暇中の練習等にも学生たちの傍らに寄り添い、一人ひとりに応じて、力を伸ばす練習を進めています。今年も、毎日書道展ではU23奨励賞(漢字部Ⅱ類)を受賞し、多数が入選しています。高野山競書大会では全日本書道連盟賞を受賞し、出品した他の学生たちも入賞しています。7月には茨木フェスティバルをはじめとして、8月にはオープンキャンパスにて、書道パフォーマンスも披露しました。9月以降もいろいろ準備中です。

夏休みの期間中にも様々なイベントが続きます。昨年スタートした国内旅程管理研修は、2年生の希望者が、9月4日(水)~6日(金)に教室で講義を受け、9日(月)~11日(水)に東北文化歴史研修に臨みます。日本文化学会では、9月17日(火)~18日(水)に城崎・天橋立方面に一泊二日の旅行を行います。

産学連携関連では前期に2年生が、「水都大阪コンソーシアム」「大阪水上バス(株)」との取り組みの中で、〈水都・大阪〉を国内外の観光客にアピールするクルーズプランを提案し、「家族で楽しむ、特別な時間を水上で」というコンセプトの案が採用されました。後期には、1年生がチャレンジします。

大学ホームページ内の「学科ニュース」や「学科ブログ」、Instagramで情報を発信しています。ぜひご覧ください。(市瀬雅之学科長)

国際英語学科

教育後援会の会員の皆様、日頃よりご理解とご協力を賜りありがとうございます。2024年度、国際英語学科は17名の新入生を迎えました。入学後間もなく行われた恒例の学会入会式では歓談や食事を通して親睦を深めました。初めは緊張した面持ちの新入生たちも、教員や先輩学生による大学生活や留学についての話を聞くうちに、打ち解けて和やかな雰囲気になりました。セリ先生お手製のキャロットケーキも、歓迎ムードを盛り上げてくれました。6月8日には初年次セミナーの一環として、1年生全員で国立民族学博物館へフィールドワークに出かけました。民博では菊澤律子先生にフジ語や言語学

の研究方法について、お話をうかがいました。このご講演により、9月のハワイ研修への心構えが少しできたように思います。

6月26日、学会の春季講演会として、日本メイクアップ技術検定協会認定講師の奥田利子先生をお迎えし、「印象を操作するメイクアップ術」と題してご講演いただきました。今後の就職活動にも活かせるとあって、学生たちは大変興味深く聞いておりました。奥田先生は本学科の専門科目「メイクアップテクニックI・II」もご担当されています。7月には奥田先生ご担当の「メイクアップテクニックII」の受講生7名が日本メイクアップ技術検定試験2級を受験いたしました。

今年も8月末から1年生を対象に、総合旅程管理主任者研修が始まります。8月22日から5日間、学内で座学研修を受けた後、9月2日にハワイでの実地研修に出発します。実り多き研修となることを祈っております。また、9月25日には、2025年度前期出発の海外実習について留学説明会を実施します。未曾有の円安で海外留学は厳しい状況ではありますが、何物にも代えられない貴重な体験を求めて、多くの学生に世界に旅立って行って欲しいと願います。4年生の就職内定状況に関しましては、昨年度に続き、非常に順調だと聞いております。今後も多くの学生が希望を叶えられるよう、学科教員と就職部が一つになり、支援してまいります。

来年度から学科の専攻名が変更され、「国際教養専攻」「観光エアライン専攻」「キャリア英語専攻」の3専攻となります。それに伴い、学びの内容も英語・英語圏の文化から視野を広げたものを準備しております。学科の活動の詳細につきましては、大学HP学科ニュースおよび学科ブログをご覧くださいれば幸いです。また、国際英語学科のインスタグラム(ID:baikaglobalenglish)も開設いたしました。こちらにも訪問いただければ嬉しいです。

最後になりましたが、教員の異動をご報告いたします。長らく学科の教育に尽力してこられた安達克郎先生が、ご定年のためこの3月にご退職されました。安達先生には非常勤講師として、引き続き専門科目をご担当いただいております。18歳人口の減少とともに、大学教育も変わりつつありますが、小規模大学のメリットを活かし、これまで以上に教員一同力を合わせ、学生一人一人に寄り添う指導に努めたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。(近藤眞理子学科長)

心理こども学部の近況報告

心理こども学部長 伊丹 昌一

教育後援会の皆様におかれましては、いつも心理こども学部にご支援を賜りまして誠にありがとうございます。心理こども学部では学生の主体性の向上やキャリアアップを目指した様々な取り組みを行い、エレガントでチャレンジ精神あふれる自立した女性の育成に心血をささげております。各学科の取り組みにつきましては、各学科長よりご紹介させていただきます。

心理学科

心理学科は、「心を観て聴いて識(し)り、伝え、優しく支え合う」「人・動物・環境に優しく! 学びを進んで実践する」ことのできる女性を育てることをモットーに「公認心理師」「特別支援学校教員」「キャリア心理」「アニマルセラピー」の4つの専攻を設けており、今年度は50名の新入生を迎えました。さて、心理学科及び大学院心理臨床学専攻は今年度で開設20周年を迎えましたので、そのあゆみについてご紹介いたします。

まず2000年4月に、心理学科の前身となる文学部人間科学科心理学コースが設置されました。この心理学コースが独立して2004年4月に現代人間学部心理学科が誕生しました。同時に大学院心理臨床学専攻が設置され、その附属機関である心理教育総合相談センターも開設されました。

2010年には、学部改組により心理こども学部心理学科となり、これ以降、心理学科は時代と共に変化する世の中のニーズに対応し社会で活躍できる女性を育成することを目指して大きく歩みを進めて参りました。

その1つめとして、2012年度に高校(公民)の教員免許を取得するためのカリキュラムを整え、2014年には特別支援学校教員を養成するための教職課程が設置され、特別支援学校教諭と高校(公民)教諭の一種免許状を取得できる学科になりました。

2つめは、2012年にセラピー犬の“梅ちゃん”が、2013年に“花ちゃん”が心理学科の仲間になり、両セラピー犬には学生証が授与されました。2017年度には「ドッグシッター」等の3資格の取得が可能になりました。

3つめは、2018年に「公認心理師」資格取得のためのカリキュラムを学部・大学院ともに整え、「公認心理師国家試験受験資格」の取得が可能になりました。

そして2019年には、これらの取り組みを土台に、「公認心理」「キャリア心理」「特別支援教育」「動物看護・セラピー」の4コースが設置され、学びの方向性がより明確になりました。その後、多少の名称変更を経て現在の4専攻の姿となりました。

なお、アニマルセラピー関係では2024年度入学生から、上記3資格に加え、「セラピードッグトレーナー」等の3資格の取得が可能になりました。また今年7月には韓国のテグ大学の伴侶動物保健学科の訪問を受け、本学の“梅ちゃん”も参加して、国際交流の機会に恵まれ、韓国語、日本語、英語、犬語等を交えて、楽しいひと時を過ごしました。

このように心理学科が継続して発展することができましたのも、ひとえに皆様方のご支援、ご配慮の賜と心より感謝を申し上げます。我々教員にとって、学生の皆様がその時々で見せてくれる充実した表情や成長していく姿に接することが何よりも喜びです。教員一同、教育の質を保ち、十分なコミュニケーションをとり、学生の皆様の学びや困りごとにかき細かく対応できるよう努めてまいりますので、引き続きあたたかい励ましとご支援を賜りますようお願い申し上げます。(三雲眞理子学科長)

こども教育学科

今年4月、学科創設15期生となる新入生を迎えたこども教育学科では、「めざすはこどもをはぐくむスペシャ

リスト」をモットーに、保育士資格、幼稚園教諭及び小学校教諭一種免許状の取得を主軸に、確かな専門性と現場で生きる実践力を持った保育者、教育者の育成を目指して、教職員が一丸となって教育活動を推進しております。

こども教育学科は、保育、教職に関わる専門科目を1年生からバランスよく配置することで、自分の適性を見極め、将来像を明確にして必要な学習を積み重ねることができるカリキュラムとなっております。とりわけ従来から力を入れております実習は、1年生に幼稚園または小学校での「現場体験」、2年生前期・後期、3年生前期に保育所や施設での3種の「保育実習」、3年生後期に幼稚園または小学校での「教育実習」を履修することになっており、そのいずれにおいても少人数のクラス編成を行い、事前事後学習および実習中の訪問など丁寧な指導、サポートに努めております。同時に即戦力につながる現場でのボランティアの推奨、個々に応じた採用試験の対策など展望を持った指導に取り組んでおります。

また近年、大学では、これまでの教育・研究に加えて、社会貢献の役割を担うことが期待されています。現在こども教育学科では、茨木市との連携事業である未就園のこどもとその親が集える「子育てひろば」の開催、女性としての生き方をテーマに、問題・発見解決セミナーⅡの授業で高槻商工会議所などを行う「Fem Tech商品」の開発、複数の企業・団体と協働してこどもたちにお仕事体験を提供するイベント「みらいのたからばこ」への参加等々、産官学連携のさまざまな活動に取り組み、地域社会・経済社会への貢献に取り組んでおります。その他、大学近隣の保育所や幼稚園における「おたのしみ会」や小学校の「クラブフェスティバル」などへの参加協力、こども教育学科主催の「こどもフェスタ」の開催など、学生の主体性、表現力、思考力、コミュニケーション力を高めていく、さまざまな活動を行っています。

さらに、来年5月には「こども学科・こども教育学科創設15周年記念行事」を実施する予定であり、ただいまそれに向けての準備を進めております。当日は、学科の学びを活かした職に就き、現在も活躍されている1～10期生の卒業生10名によるシンポジウムや、新しくなった緑風館食堂でのホームカミングパーティを予定しています。卒業されてから年月が経ち、職場で要職を任されるようになったり、あるいは結婚して子育てに奮闘中であつたり、各々異なる生活環境にいらっしゃるごとと存じますが、久しぶりに卒業生の皆様が一堂に会し、教員と同級生、また学年や職種を越えての交流を深められる機会になることを楽しみにしております。

4年間の大学生生活が充実し、卒業後も折に触れて本学を懐かしく思い出していただけるよう教職員一同、学生一人ひとりに寄り添ったきめ細かな対応に努めてまいります。教育後援会の皆様には、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(藤井奈津子学科長)

食文化化学部の近況報告

食文化化学部長 小鶴 祥子

教育後援会の皆様には、日頃より温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。自然災害、猛暑、まだまだ終息しない感染症により、私たちの生活は、落ち着きを取り戻せていない状況です。普通、平常という言葉では表現できない事が日常となり、普通に生活できる事の有難さを日々痛感しております。このような時代では、社会の様々な変化に積極的に向き合い他者と協働して課題を解決することや、様々な情報を見極め知識の理解を深め情報を再構成しながら、自らの為すべきことをしっかりと考える力が重要となってきます。本学部では、学生たちが自らと向き合い、食を通じて得た知識や技術を使って何が出来るか、4年間の学びで得たものをどのように社会に活かせるか、自分の強みを社会において発揮できる人材の育成を目指しています。今後も様々なイベントや産学連携の活動を大切に、質の高い教育を目指し教職員一同引き続き取り組んでまいります。教育後援会の皆様におきましては、今後ともご支援とご理解を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。活動の詳細につきましては、各学科長より紹介させていただきます。

食文化化学科

教育後援会の皆様にはいつもご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。食文化化学科では調理師としての確かな知識・技術習得に加え、学内外での多様な経験が卒業後に大きな糧となると考えて積極的にその機会づくりに努めており、その成果をご報告いたします。

まず、8月にはぐるなび主催の「お米メニューアイデアグランプリ2023」にて、3年調理ゼミ1件が入賞、調理ゼミとビジネスゼミから2件がノミネート賞となり、うち2件は2024年、東京神田の「串吟」にてメニュー化されました。

11月には、兵庫県淡路島で開催された「ユースシェフ料理大会2023」の個人戦にて、中村舞さん(3年)の「真鯛のポッシュとリゾット・ジャポネ、玉ねぎに見立てたオニオンのチュール」が最優秀賞を受賞しました。

2024年2月、第1回ご当地おむす美大賞にて、食文化ゼミの「多幸結美 ～多くの幸せ、結ぶ美味しさ～」近畿ブロック代表となり、全国大会で特別賞を受賞、新福島の「多幸屋」にてメニュー化されました。

「茨木市3大学対抗アイランドメニューグランプリ」では、角野彩花さん(2年)の「おさつスティック&チーズチップス ～3種のディップソース～」がグランプリに、「第10回ひるがの高原だいこん杯」では優秀賞2件、ひるがの高原だいこん賞1件入賞しました。また「全国学生・沖縄黒糖®レシピコンクール」では井家由明菜さん(3年)のレシピ「黒糖を使った和製フィナンチーヌ」が一次審査を通過しました。

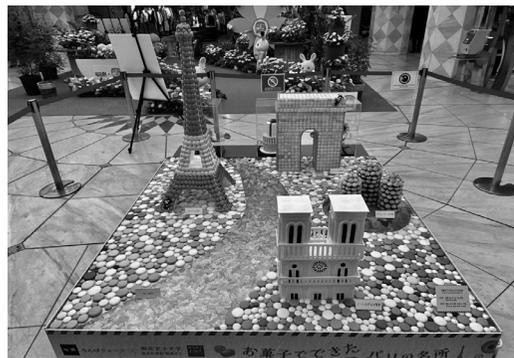
3月には、なんばウォークにて製菓ゼミが「お菓子でできたパリの名所」を制作しました。マカロンやクッキー、シュガークラフトで、オリンピックの舞台であるパリのエッフェル塔や凱旋門、セーヌ川などを表現し、買い物客や観光客が行きかう難波にて、多くの方にお楽しみいただきました。製菓ゼミは、梅花女子大学で開催さ

れた日本アントナン・カールム協会主催パリ美食コンテストにも協力し、間近でプロの作品作りに接する機会を得ました。なお2022年度に協会より学科に寄贈されたカーレムゆかりの品々による「特別写真展 珠玉のパティシエ ～アントナン・カールムの足跡をたどって～」も同時開催されました。

産学連携では、恒例の1年生企画の恵方巻が、2024年節分に「和と韓の海鮮コラボ恵方巻 タコ飯巻き／ヤンニョム エビカツ巻き」として関西地区10店舗にて販売されました。2年生の音羽鮭のご縁福巻は、うるう年の2024年、12種が選ばれ、販売中です。ぜひ1度お召し上がり下さい。

食育ゼミ・調理科学ゼミが取り組む東芝ライフスタイル(株)アプリには、2023年には「おつまみ」、「冷凍野菜」、「韓国料理」をテーマに18レシピを提供しました。2022年作成のJA 飛騨との販促レシピは、梅花女子大学オリジナル冊子が新たに作成され、現在、大学広報に活用されています。

久しぶりに2024年度は台湾への海外研修が決定し、食に関わるさまざまな研修を予定しております。今後も充実した学びの機会を提供できるよう努めてまいりますので、引き続きご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。(寺川眞穂学科長)



製菓ゼミ制作
「お菓子でできたパリの名所」@なんばウォーク

管理栄養学科

教育後援会の皆様におかれましては日頃よりご支援を賜りありがとうございます。管理栄養学科が開設されて8年目を迎えました。2024年度は23名の新生を迎え、2名のクラス担任を中心に1年生へのよりきめ細かなサポート体制をとっています。前期の「初年次セミナー」では、大学で学んでいく上での基礎的な知識や管理栄養士になるための心構え、将来の目標について考えることができるよう様々な課題に取り組んでいます。フィールドワークでは、食品流通の現場である「大阪府中央卸売市場」を見学し、学生同士の親睦を深めました。

2年生の問題発見・解決セミナー、3年生の栄養教育論実習、4年生のゼミなどでは、産官学および地域との連携をすすめており、今年度は新たに、実践的な学びとして一人暮らしの高齢者の方を対象とした手作り給食の支援に取り組むことになりました。また、今年6月に大阪・関西万博のイベントとして開催された「ワクワクEXPO with 第19回食育推進全国

大会」に参加し、3年生が学生運営スタッフとして、4年生が管理栄養士養成施設ブースでの「食品ロス削減」の啓発に取り組みました。さらに7月には、3年生が茨木市との連携イベント「食生活について考える」に参加しました。食生活について学ぶコーナーやSATシステムによる体験型栄養教育を行い、624人の方々にご来場いただき、大盛況のうちに無事終えることができました。

また、8月からは学外実習として、3年生は臨地実習I(給食の運営)、臨地実習II(給食経営管理)、臨地実習IV(臨床栄養学)、4年生は臨地実習III(公衆栄養学)が始まります。学生たちは、各施設の管理栄養士の業務や役割を知り、目的意識を持って意欲的に実習に臨むことができるよう事前学習にも積極的に取り組んでいます。

就職に関しまして、今年3月に卒業した第4期生37名の就職率は100%でした。就職先の内訳は、給食会社が14名で最も多く、次いで病院・診療所5名、食品販売・製造4名、福祉施設、薬局・ドラッグストア、一般事務職などです。3年生は就活ゼミに参加し、就職活動に取り組んでいます。4年生の内定率は7月時点で78.4%です。

4年生は就職活動と並行して、国家試験の勉強に取り組んでいます。今年3月に実施された第38回管理栄養士国家試験の全国合格率は49.3%であり、前年より7.3ポイント低下しました(管理栄養士養成課程新卒の合格率は80.7%、既卒の合格率は7.8%)。第4期生は37名のうち33名が受験し、合格者は22名(合格率は66.7%)という結果となりました。引き続き、国家試験対策を強化するため、学内模試及び全国統一模擬試験(業者模試)を重ね、その結果をふまえて、知識の定着と応用力の向上に繋がるよう学科教員による講座を行っています。さらに少人数や個別による学習指導、練習問題の配信を行うなど全教員できめ細かなサポートに努めています。外部講師による特別講演会や夏期特別講座も取り入れ、教員一丸となって、合格率80%以上をめざして、学生たちとともに国家試験対策を進めています。

教育後援会の皆様には今後ともご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(江上ひとみ学科長)

看護保健学部の近況報告

看護保健学部長 深見 秀幸

教育後援会の皆様には、日頃より看護保健学部で温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、看護学科、口腔保健学科ともに病院やクリニックなどの臨地実習の制限も徐々に緩和されてきました。今後も、感染防止対策を継続しながら、学生の安全に配慮し、臨地実習をすすめていきたいと考えております。看護保健学部では臨地実習をはじめとした専門性を生かした特色のある教育を推進しております。教育後援会の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。活動の詳細につきましては、各学科長より紹介させていただきます。

看護学科

看護学科は、今年3月には78名が卒業し、卒業生数は928名となりました。今年2月、4年生は国家試験に臨みました。合格率は、看護師は94.8%、保健師は100%で、看護師国家試験は全国水準と同等の結果でした。本学では1年生から4年生まで一貫した国家試験対策に取り組んでいます。今年度も引き続き取り組んでいきたいと思ひます。

今年4月、看護学科は89名の新生を迎えました。新入生達の明るい顔を見ることができ、看護学科教員一同喜んでおります。大学に入学して初めて一人暮らしを始めた学生もおります。また、新しい環境で友達ができるか不安を抱えた学生もおりますので、学生アドバイザーの教員を中心に、サポート体制を整えています。今年度から1年生が大学生活に早く馴染んでくれるように、初年次セミナーの一環として、国立民族学博物館にフィールドワークに出かけました。このフィールドワークは、看護学科学生交友会とコラボして実施しました。コロナによって様々な行事が自粛される中、学生間の交流の機会も減ってしまいましたが、4月当初に上級生と新入生が交流する機会を持つことで、1年生の緊張もほぐれたようです。3年生の交友会のメンバーが中心となって、ウォークラリーやゲームを考え、リーフレットを作成してくれました。1年生にとっても、同行した教員にとっても楽しい機会になりました。学科では昨年度からの新たな取り組みとして、学生が安心して臨地実習に臨めるように、実習前にバイタルサインチェックなどを練習するために演習室の開放を始めました。また、実習前に技術確認を実施する体制を整えました。演習室開放日には、ベテランの看護師を雇用し、学生が主体的に技術演習に取り組めるようにしました。今年度はこの体制をさらに充実し、1年生、2年生の基礎看護学実習、3年生の分野実習、4年生の総合実習前に、演習室の開放日を拡大しました。開放日には学生は自分の技術を磨くために積極的に技術演習に来ております。また、今年度も引き続き卒業生と在学生の繋がりを強化することを考えたホームカミングデイを8月24日に開催します。就職説明会には多くの卒業生が参加することから、今年度のホームカミングデイは、就職説明会との同時開催にします。そして、ここも交友会とのコラボでの企画とし、在校生が主体的に運営してくれることになっていきます。

看護学科では、学科行事、実習や演習の様子などを積極的にブログに挙げております。昨年度までは、ブログの記事は教員が書いておりましたが、今年度からは学生が書いた記事も掲載しています。新たな取り組みとして、実習施設向けに看護学科ニュースを発行します。学科ニュースの配信により、実習施設の指導者様や卒業生に学科の取り組みを啓発していきたいと思ひます。教育後援会の皆様にも看護学科学生の生き生きとした活動の様子を見ていただきたいと思ひます。

今年度も看護学科教員が一丸となって、教育に取り組んでいきたいと思ひます。教育後援会の皆様には、益々のご支援を賜りますようお願いいたします。

(原田小夜学科長)

口腔保健学科

今春3月には、第6期生となる68名が卒業しました。3月3日のお雛祭りの日に実施された第33回歯科衛生士国家試験は68名が受験し、3月26日の合格発表の結果、66名が歯科衛生士国家資格を取得することができました(合格率:97.1%)。そして4月には、新入生50名を迎え入れました。入学時オリエンテーションでは、口腔保健学科の授業は演習や実習を中心とした必修科目が多くハードな面があること、卒業時には国家試験という大きな山を迎えること、勉強についていけるか不安な場合や知識や技術の習得が難しい場合には教員が支援するので、遠慮なく相談してほしいことをお話しました。

前期の授業では、1年生は、歯・口腔の専門知識や病気の予防について学び、2年生は、臨床知識の習得に加えて、歯科衛生士業務の技術トレーニングを始めました。3年生は、後期の歯科診療所での臨床実習に向けて、知識と技術の総仕上げを行っています。9月にはチャペルにおいて、医療人としての自覚と実習生としての心構えを誓う「臨床臨地実習宣誓式」を挙げる予定です。4年生は、病院、保健施設、障害者・高齢者施設、教育機関などのフィールドでの実習を終えると、後期には国家試験の模擬試験と補講が始まります。

課外活動では、教員の研究活動に触れたり、地域と大学の連携のもと、学外での社会貢献を実践する機会をつくっています。12月には口腔保健学会成果発表会を開催し、学科学生や大学院生、歯科医院、病院、企業、行政などで活躍する卒業生や歯科衛生士の講演を聴く機会を設けました。聴講した学生からは、早くから学外実習のイメージをもてた、将来の進路を意識する機会になったなどの感想が多数みられ、大変好評でした。今年度も12月に開催する予定です。

今年度は学科開設10年目となります。今後の歯科衛生士の職域拡大を見据え、当科には、病院や診療所での臨床経験が豊富な教員、歯科衛生士教育に長年携わっている教員、企業そして行政の業務を経験している教員が在籍しています。全国に180校ほどある歯科衛生士の養成機関は多くが3年制であり、4年制大学は本学を含めて現在14校です。プラス1年を有意義に使って、幅広くじっくり学んでもらえるよう、私たち教員が学生一人ひとりに丁寧に対応し、全力でサポートしていく所存です。教育後援会の皆様には、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に大学HPの口腔保健学科「学科ブログ」の更新に力を入れております。学生の様子や学科の活動を随時発信していきますので、ぜひご覧になってください。(小島美樹学科長)

本学の進路支援について

就職部

会員の皆様には常日頃から本学の進路支援活動にご理解を賜り、多大なるご協力、ご支援をいただき、お礼申し上げます。本学の卒業生の進路は例年多岐にわたりますが、今年度の就職状況についてご報告を申し上げます。

1 卒業生の就職状況

2024年3月卒業生就職状況

学 科	国際英語	日本文化	情報メディア	こども	心理	食文化	管理栄養	看護	口腔保健
卒業生数	32	27	61	76	71	63	37	78	68
就職希望者数(A)	27	24	58	76	59	49	37	74	66
就職決定者数(B)	27	24	57	76	58	49	37	74	66
就職決定率(B/A)%	96.4	100.0	98.3	100.0	98.3	100.0	100.0	100.0	100.0

※詳細につきましては、本学ホームページおよび、大学ポータル（日本私立学校振興・共済事業団）をご参照ください。

【梅花女子大学】



【大学ポータル】



◆ 2023年度後期 就職支援プログラム ◆

夏期集中筆記試験対策講座

就職部では、8月から9月にかけて計6日間、筆記試験対策専門の講師をお招きし、「夏期集中! 筆記試験対策講座」を実施しました。



1年生から3年生を合わせて約120名の学生が参加し、非言語(数学)の問題を中心に取り組みました。

我が国の企業・団体等における新卒採用選考では、90%程度割合で筆記試験が課されており、対策が重要となります。参加した学生の皆様も、その重要性を十分理解した上で講座に取り組んでいるようでした。

就職活動においては、この筆記試験が第一関門といっても過言ではありません。特に非言語(数学)については、出題範囲も概ね決まっており、対策次第では大幅に点数を上げやすい分野でもあります。早いうちに準備を行い、計画的に取り組めば必ず攻略できるので、この筆記試験対策講座を通じ苦手意識がなくなることを願っています。

就活チャレンジ梅花組

人気有名企業の内定を目指す学生のための就活特別プログラム「就活チャレンジ梅花組」を実施しました。



2 本学の取り組み

本学では、キャリア基礎科目として1年次前期・後期には「初年次セミナー」、2年次前期には「キャリアデザイン」「問題発見・解決セミナー」などの科目を配置するとともに、教養科目や各学科の専門科目にも独自の就業力養成のための科目を配置し、就職意欲の向上を図っています。

加えて就職部では、大学3年生を対象に、年間約30回の「就活ゼミ」を実施し、書類選考対策、筆記選考対策、面接選考対策、内定した先輩たちとの懇談会など実践的な就職教育プログラムを行うとともに、学科単位で編成される「就活クラス」ごとに就職相談員を配置し、求人情報の提供、就職相談、書類添削、面接練習などの個別支援を行っております。

3 お願い

教職員一同全力をあげて、お嬢様方の進路支援における様々な問題に対応しつつ、充実した進路の実現がなされるよう取り組んでおります。

ご家庭におかれましても、お嬢様方のご成長と、よりよき進路の実現をお見守りくだされば幸いに存じます。

このプログラムは、2023年10月～12月にかけて(合計10コマ)実施いたしました。

有名大手企業の元採用責任者を専門講師としてお招きし、コロナの影響による厳しい就職活動状況を踏まえて、どのような行動を実践すべきかを解説し、実践トレーニングを中心に講座を実施。

35名の学生が参加し、「グループ面接」「個人面接」「グループディスカッション」などの対策を、実践練習を何度も繰り返して実施し、個人ごとに詳しいフィードバックが返されるなど、一人ひとりに合わせた講座を展開。受講生は2024年7月末時点で内定獲得率が97.1%(学校平均は2024年7月末時点で58.0%)であった。加えて複数の内定をいただいた学生がほとんどであり、結果として如実に表れていました。

就活チャレンジ小梅組

希望の進路をかなえるための就活特別プログラム「就活チャレンジ講座(小梅組)」を2023年10～12月にかけて(合計6コマ)実施しました。



このプログラムは2年生を対象とした講座で、「就活の成功は早めの準備、2年生の今から楽しくスタートしよう!」をテーマに、希望企業から内定を獲得するためのスタートアップ講座です。

早いうちから就職活動に取り組みたいという意欲的な参加学生約40名は、昨今の就職活動の変化について理解を深めた他、文章の書き方や話し方、企業研究法

などたくさんの内容を学んできました。またグループディスカッションなどの実践練習にも取り組みました。

内定者懇談会(就活ゼミ)

年間約30回開催する就活ゼミのうち、12月の回では、3年生を対象に4年生の内定した先輩たちとの懇談会を開催しました。

製造、情報サービス、小売、金融、飲食・調理、教育、医療、福祉、地方公務などの業界に、総合職、営業職、販売職、事務職、保育士・幼稚園教諭など様々な職種で内定した先輩たちが集まり、リアルな就活体験談や就職活動の進め方などのアドバイスに加えて、学生生活の過ごし方など様々なテーマでお話しいただきました。

参加した3年生からは就活に不安の為か質問が数多く寄せられ、4年生からは実体験からのアドバイスを受けると共に、とても温かいエールをもらいました。

1日完結就活講座

就職部では2月13日(火)に外部講師をお招きして、就職活動を目前に控えた3年生を対象に「1日完結就活講座」を開催し、約10名の参加がありました。

本講座の参加者の多くは、これから就職活動を本格的にスタートさせる予定ということもあり、内容としては自己分析の方法や自己PR・志望動機の作成といった基礎的なことから、就活初心者のための面接トレーニングと題し、学生同士で面接官役と応募者役に分かれ、自らの課題発見を目指したトレーニングを行いました。

学内企業説明会

就職部では、2月6日(火)～7日(水)の2日間で、3年生を対象に「学内企業説明会」を開催しました。

金融、プライダル、ホテル、エアライン、給食、テレビ制作、薬局、人材、公務員など多岐にわたる業界より、梅花に強い関心を持ち、採用意欲の高い34社にお越しいただきました。また、お越しになった企業様の中には、梅花の卒業生で採用担当者という方も何名もいらっしゃいました。対面形式で会社の概要や仕事内容について、2日間併せて約200名の学生とじっくりお話しいただきました。



学生たちは人事担当者の丁寧な説明に熱心に耳を傾け、積極的に質問をおこなっておりました。

実際にこの企業説明会にご参加いただいた企業に就職を決めたという学生が、今年度もたくさんいらっしゃると伺っております。

採用選考トレーニング

就職部では、3年生を対象に「採用選考トレーニング」を実施しました。

このトレーニングは、筆記試験や面接試験、グループディスカッションなどの選考を経て、採用内定に至るまでの就

職活動の流れを学内で体験できるプログラムとなっており、2月2日(金)、5日(月)の2日間のトレーニングに、約20名の学生が参加しました。

本プログラムで選考の一連の流れを確認することができ、学生自身の課題発見に繋がったようでした。

就活スタートアップ講座

2年生を対象に、年々早期化していく就職活動の不安解消を目的とした「就活スタートアップ講座」を2月27日(火)に実施いたしました。約40名もの参加があり、



就職活動の現状の理解を深めた他、グループディスカッションの体験、自己分析を行うなど、従来の3年生が行っている内容をいち早く体験しました。

面接実践プログラム

本選考が解禁された3年生を対象に外部講師をお呼びしての面接実践プログラムを2日間で約30名の学生を対象に実施いたしました。実際に面接選考が始まっている方も多く、受験企業を想定した実践的な内容で面接練習を行いました。

◆ 2024年度前期 就職支援プログラム ◆

就活ゼミ

就職部では、3年生を対象に就職教育プログラムとして毎週金曜日の2限目に「就活ゼミ」を年間約30回開催しております。就職活動の現状についての理解はもちろん、自己分析、業界研究、文章の書き方、筆記試験対策、グループディスカッション対策、面接対策など、様々な内容の講座を実施します。後期では外部講師や人事担当者をお呼びしての実践練習なども数多く行う予定です。



就活チャレンジ梅花組(前期)

近年の企業の採用活動早期化の流れを踏まえ、例年、秋学期に実施していた就活チャレンジ梅花組を今年度より前期にも実施。夏季より本格的に開催される



インターシップへの選考や早期選考に対応するため、グループディスカッションや面接などの実践練習を行いました。また、就職活動を終えた4年生の先輩によるパネルディスカッションや公開面接で実際の面接を見ることができ、とても勉強になった様子でした。